

情報連絡員報告総括表（令和7年2月分）

三重県中小企業団体中央会
連絡員総数 40名
回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況								
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化						
製 造 業	食料品	1	2	1		4		2	2			3	1		3	1		4			4			4			2	2						
	繊維工業		2	1		3		2	1			3			3			3		1	2			2	1		2	1						
	木材・木製品		1	1		2		1	1			1	1		1	1		2			1	1		2			1	1						
	紙・紙加工品			1			1	1				1				1			1			1		1			1							
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
	化学・ゴム																																	
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2			3			3			3			3			3			3							
	鉄鋼・金属	1				1			1			1		1				1			1			1			1							
	一般機器			3		2	1	2	1			3				3			3		1	2		3			2	1						
	電気機器		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
	輸送機器	1			1			1				1		1				1		1					1	1								
	その他																																	
小計		3	9	8	1	17	2	10	10			18	2	2	12	6		16	4	2	14	4		18	2	1	14	5						
非 製 造 業	卸売業		2			2		1	1			2			1	1		2		X				2			2							
	小売業	1	3	2		6		3	3			5	1		4	2		4	2					6			4	2						
	商店街		1			1		1					1		1			1						1			1			1				
	サービス業	1	2	1	X			2	2			4			3	1		3	1					4			4			3	1			
	建設業		3	1								4			3	1		3	1					3	1		4			4			3	1
	運輸業			1							1				1				1					1			1			1			1	
	その他		2									2			2			2						2			2			2			2	
小計		2	13	5		9		8	12			17	3		14	6		16	4		20			16	4		16	4						
合計		5	22	13	1	26	2	18	22			35	5	2	26	12		32	8	2	14	4		38	2	1	30	9						

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和6年2月～令和7年2月)

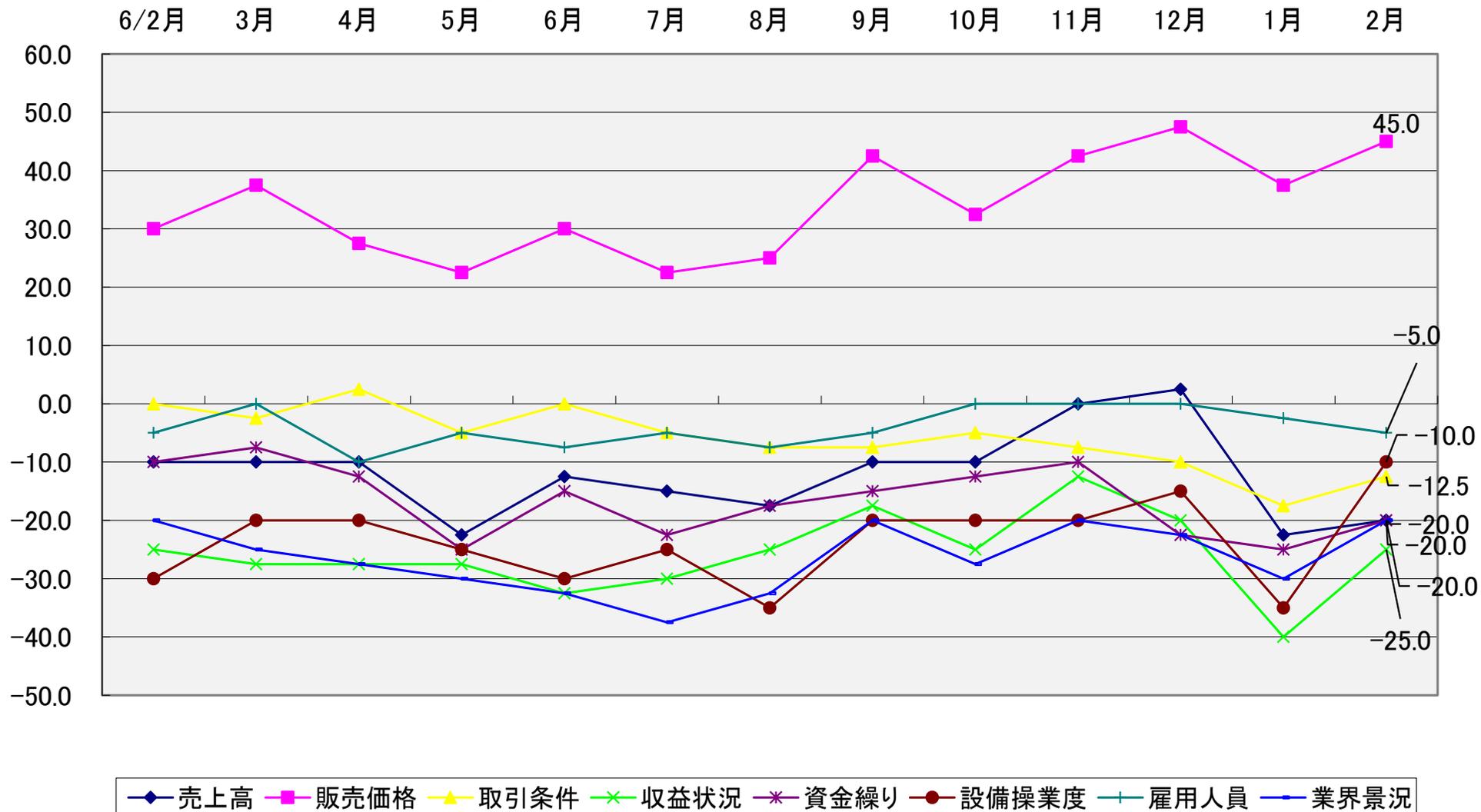
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	6/2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	増減
売上高	-10.0	-10.0	-10.0	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-10.0	0.0	2.5	-22.5	-20.0	2.5
販売価格	30.0	37.5	27.5	22.5	30.0	22.5	25.0	42.5	32.5	42.5	47.5	37.5	45.0	7.5
取引条件	0.0	-2.5	2.5	-5.0	0.0	-5.0	-7.5	-7.5	-5.0	-7.5	-10.0	-17.5	-12.5	5.0
収益状況	-25.0	-27.5	-27.5	-27.5	-32.5	-30.0	-25.0	-17.5	-25.0	-12.5	-20.0	-40.0	-25.0	15.0
資金繰り	-10.0	-7.5	-12.5	-25.0	-15.0	-22.5	-17.5	-15.0	-12.5	-10.0	-22.5	-25.0	-20.0	5.0
設備操業度	-30.0	-20.0	-20.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-20.0	-20.0	-20.0	-15.0	-35.0	-10.0	25.0
雇用人員	-5.0	0.0	-10.0	-5.0	-7.5	-5.0	-7.5	-5.0	0.0	0.0	0.0	-2.5	-5.0	-2.5
業界景況	-20.0	-25.0	-27.5	-30.0	-32.5	-37.5	-32.5	-20.0	-27.5	-20.0	-22.5	-30.0	-20.0	10.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がり、経営を圧迫する状態が続いている。また昨年末からの高温乾燥による原料野菜の生育不良に加えて、年明けからの寒波の影響により、大根、白菜等の漬物用原料野菜の生育不良による原料の高騰の影響が続いている。一般的に生野菜が高くなると、代わって浅漬け等の漬物の消費が増えると言われてきた。しかし今年は米の価格が高騰しており、米の消費が伸び悩んでいるためか、あまり浅漬けの消費が伸びるまでには至っていない。
	醤油味噌	2月～3月にかけて食品の値上げがある。組合員の仕入れ価格の上昇も不可避で、また原価アップとなる。中小メーカーはスムーズな価格転嫁ができず利益が圧迫される。12日から14日に幕張メッセで開催された展示会に組合員8社と参加した。三重県産醤油を海外バイヤーに売り込むための展示会で、国（農水省）の輸出補助金を活用した。国からの補助金が年々減少しており今回は展示場の面積を狭めたが本事業は継続して行っていきたい。
	他に分類されない食料品 製造業	仕入額はほとんど変化ししたが、売上額が減っている。仕入価格の転嫁ができていないことがよくわかる。
	製麺	3月3日に定例の地域特産めん会議を開催した。参加者は中央会の櫻井氏を入れて7名であった。現状は5月末の総会に向けて地域団体商標について小林弁理士に講演を依頼している最中である。今後、伊勢うどんの商品についても5月2日（金）に役員会を開き、改めて現状の伊勢うどんを買ってきて見直して、地域ブランドを盛り上げていく所存である。
木材・木製品	木材	住宅需要が低迷する中で国産材製品の荷動きは低調で原木素材不足、人件費や配送料等の高騰を背景に製材工場は厳しい経営環境が続いている。
	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。従業員の確保が困難である。
紙・紙加工品	古紙	2月の仕入れ量は、段ボール・約93±3%位、新聞、チラシ・約83±5%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約90±8%位と思う。雪の影響で三重県内の古紙の仕入れが大きく減少し市場における経済消費と共に古紙の発生も同様に消え去った感である。運賃値上げで少し経営改善の兆しかと思ったが古紙の販売価格と古紙発生量や古紙発注量における自らの古紙業者の能力低下や人件費の上昇等の経営環境で、春闘の情報も少なくも、元々大企業とは差や開きも有り、今年も独自で昇給の割合を検討中である。ところで四国の新聞原紙メーカーが負債総額470億円程度で、2月28日に会社更生法適用となり当社も4カ月で270万円程度の売掛金がほとんど貰えなくなるようである。取り扱い重量が年々減少する中で不渡りを食らうとは残念である。中部の製紙会社の1月・2月の古紙発注量は前年比マイナスであったが他地域工場の故障により生産調整が月内に2回なされて古紙在庫が減り製品在庫が増え古紙の発注量が通常に戻った。全国製紙原料商工組合連合会の2月理事会で古紙の持ち去り禁止法案を議員立法で制定していただけると報告があった。現在でも古紙の持ち去り事例が散見され中部地区の古紙持ち去り防止連絡会議を昨年「古紙の持ち去りは無くなった。」とのことで解散されたことと金属の持ち去りの名古屋市内の条例制定の動きもあり、法制化の警戒感か、その他の要因か、分からないが早気であったように感じる。
		印刷
窯業・土石製品	伊賀焼	組合員の業況は少しずつ上向いてはいるが、ますますの原料費の値上がりにより頭を悩ませている。価格の見直しなどの対策を考えている方もみえる。
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、堅調な状況である。中心は自動車関係であり、EV関連の受注を軸に今後も安定した需要が見込まれる。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
一般機器	四日市市	全体的な受注状況はあまり変わらない、引き続き停滞気味である。一部工作機械メーカーの受注増のため、部品などの入荷状況、納期に遅延が見られる。各社とも売上げの確保のため、収益が上がっていないように感じる。
	津市	全体的に受注は低調である。特に自動車関連は良くない。トランプ大統領の関税についてもどのような影響が出てくるのか不透明であり、最近の物価高の影響も車や家電などの購入意欲が減り、売上げが落ちるのではないかと危惧している。
	伊勢市	同じ状況が続いている。自動車部品、工作機械、部品加工業の受注が低調で先行きの見通しは相変わらず不透明の状況だ。木工機械、船舶製造業は良くなってきている。銀行の貸出金利が上昇し、資金繰りが悪化する企業は増えていくと思われる。
電気機器	鳥羽市	期末の追い込みもあり、受発注が2月は100%の動きがあり、機械稼働率も上がった。しかし、月後半は下がりがつある。
輸送機器	伊勢市	受注は若干の持ち直しがみられる。賃上げ、金利上昇、企業物価の高止まり等、国内における経営圧迫材料増加に対し、製品ごとの採算を見直している。また、価格転嫁も継続的に実施している。
小売業	青果	野菜前半：寒波の影響で入荷が減った品目もあるが、ほうれん草、小松菜はお手頃価格である。高値が続いたキャベツ、白菜もやや安くなってきた。鹿児島県産新じゃがいも、愛知県産、静岡県産新玉ねぎの入荷も増加してきた。トマト、ミニトマトも冷え込みの影響で入荷も少なく高値が続いている。 野菜後半：入荷は不安定だが増えつつある品目もある。高値疲れで価格を下げたレタス、じゃがいも、玉ねぎは安定価格になっている。キャベツ、白菜は昨年比で高値が続いている。 果物前半：全体的に昨年に比べ入荷が少ない。イチゴは大粒のものが多くお値打ちである。みかんは終盤になり価格も高値で、本年度は作況が良くなく、不作であった。青森県産リンゴは、入荷は順調であるが高値である。 果物後半：県内産イチゴは入荷が一気に増え、価格も平年並みになった。味も甘味が強く酸味のバランスが良くおいしい。今が食べごろである。青森県産リンゴは高値が続いているが、安定して入荷がある。
	自転車	トランプ米政権が仕掛ける貿易戦争や国内政局など不安要素が多い中、大手企業は基本給の底上げを目指している。我々小売業者は円安に伴う物価の上昇に加え、コメ等の値上げが響き、消費者の通学を目的とした自転車は益々低価格商品へ移行し始めている。また、少子化の影響もあり台数にして各店昨年比マイナス25%以上を示す結果となり、修理部門に至っては、天候にも左右され、皆無の状況が続いている。3年以後に期待できない理由としてはユーザーの動向はチェーン店、大量販売店が行っている会員及びポイント何倍といった制度に足が向くと思われる。
	電器	昔から2月は売れ行きが減少する月だったのが、近年ではそれなりに需要がおきていたと思う。しかし今年は商品の動きが少なかったように感じた月であった。寒さが厳しくなると人の動きも少なくなるのが原因ということもないが、電気製品が故障する話や買い替えも少なかった。逆に電気の使い過ぎでブレーカーが切れる案件が今までより多かった印象であった。電気ストーブなどは手軽に使えるが電力が大きいので他の電気製品と複合して使うと使用容量を超えたりする。
	石油	昨年1月1日に発生した能登半島地震から1年余りが過ぎた。その被害は甚大で、今も復旧作業が続いている。震災後の昨年3月に現地視察を行ったが、とうてい復旧することが困難なように感じた。「レスキューナウ」によると、地震発生時から2月6日までの停電発生数は最大4万8,930件とのことである。地震直後の電力供給に向け現地に到着した非常用発電車の動力源として軽油が使われ、必要とされる軽油をタンクローリーで運んで絶えず電力復旧を後方支援したのが石油組合員である。三重県内のガソリンスタンドにおいても住民拠点・中核SS・小口燃料配送拠点には自家発電機を設置し最後の砦となるべく災害時に備えている。しかしながら、県内の組合員数は2002年の455社に対し現在は223社であり、SS数は704SSに対し378SSと大きく減少している。南海・東南海地震が想定される中、最後の砦となるべくSSの減少が続いており災害時に対し大きな危機を感じるところである。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
商店街	熊野市	商店街内で開催される月一の朝市イベント、今回は紀伊半島南部だけに自生している数年前に発見された桜の新種「クマノザクラ」をテーマに、フォトコンテストや桜の葉などを使用した新商品などを取り揃えた抽選会などで開催された。ただ本来ならこの時期頃より開花が始まるはずであったが最近の厳しい寒さの為、開花が遅れて残念な結果となった。ただ写真や商品で来場者には一足早い桜の雰囲気を楽しんでくれたかと思われる。
サービス業	旅館	先月は年始、3連休と各地とも賑わっていたようだが、後半から2月にかけてはオフ期でもあって閑散とした日が続いていた。対前年同月比は90%、2019年同月比は70%程度であった。売上げは伸びず、経費は高騰し収益を圧迫している。なかでも特に電気代が異常なほど値上がりしていた。電力会社への補助が無くなったところへ使用量が多くなったためと聞いているが早く善処してもらいたい。
	警備	例年に比べて工事発注量が減少しているため受注量が減っているが、料金値上げにより売上高が不変となってきている。いずれは、賃金、資材が高騰しているため、利益が悪くなると予想される。
建設業	総合工事業	2025年1月の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べ増加している。内訳は県や市町の発注量が要因となっている。4月から1月末までのトータル額で見ると、施工場所が三重県での受注量は、前年度と比べ若干増加しているが、県内企業だけをみると微減となっている。
	内装工事業	2月も対前年同月比で大幅なマイナスとなった。前年同月の売上げが高いため、3月分も減少となってしまいう予測である。
	電気工事	年度末まであと1か月となり、今年度も組合員の減少に歯止めがかからない。ひとり親方の工事店主高齢化による後継者不足が主な要因で、組合員数が10数社退会となる見込みである。一方、新規加入者は年間1~2社と少なく、直近10年で約20%強の減少と深刻な状況である。
	水道工事業（亀山市）	年度末に向け各社受注工事も完成し、手持ち工事も少なくなっている。亀山市の委託業務についても事故トラブルなく取り組みができ、このまま無事故で完成したいと思っている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	5月28日（水）に組合の総会をするにあたり、小林弁理士にお願いいたします。小林さんからは了解いただきました。よろしくお願いします。
一般機器	四日市市	物価上昇、賃金アップ、人不足と事業環境は厳しく、業界全体で活況な業種が少ないように感じる。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう支援をよろしくお願いいたします。
サービス業	旅館	金融支援と需要喚起策を早急にも実施してもらいたい。